

# 住まい・まちづくり学習から始める持続可能な社会づくりの実践的プログラム開発

●研究担当：北方建築総合研究所 居住科学部居住科学グループ

●共同研究機関：愛媛大学(代表機関)、山梨大学、大阪教育大学、京都教育大学

## 研究の背景・目的

21世紀の持続可能な社会づくりには、生活の基盤である住生活が安定的に営まれることが必須です。持続可能な社会における「住まい・住生活・住環境」づくりは、スクラップアンドビルドではなく現在あるものを使いこなし、再生しながら、構築していくことが求められます。本研究は、子どもから大人まで地域住民を対象に「住まい・まちづくり学習」による持続可能な社会づくりのための住まい・住生活の継承、再生、再構築していく営みを作る学習機会の創出とそのための実践的プログラムづくりを目的としています。

## 研究の概要・成果

地域の「再生」・「継承」をテーマとする下記の住まい・まちづくり学習に関する多様な事例の実践、調査から、学習内容、学習機会の創出などについて整理、分析し、学習プログラムの提案を行いました。

- ①「八尾木の民芸づくりもん」まつりを通じた地域学習の実践と評価（祭礼の住文化研究と学校教育の連携）
- ②ペーパークラフトを使った地域の伝統的建築物、地域固有の建築による授業実践（青森、沖縄、北海道各地の住宅ペーパークラフトを用いた地域文化理解）
- ③エコ改修校舎での環境教育の実践と評価（エコ改修事業からの環境教育プログラム構築）
- ④高校家庭科の住居領域の学習指導調査、授業実践（高校教員の住教育観形成）
- ⑤大人から子どもにいたる地域力・住生活力育成（高校生持続可能な住まい・まちづくり学習要求の分析）

担当した③について資料を示します。

## 今後の展開

持続可能な社会づくりのための地域に根ざした住教育の普及促進が図られるよう、教育関係者に向けて住まい・まちづくり学習の実践的プログラムの情報提供を行います。

表1 環境教育プログラムの検討、実施プロセス

段階	検討	対象・範囲
改修工事前	環境教育の共通認識形成	教員
	ワークショップ ・学校の環境体験、温熱環境の基礎 ・学校建築 ・改修技術と方法	教員、町民、工事関係者
	学校教育カリキュラムへの展開検討	教員
	シンポジウム 改修アイデア検討	工事関係者、教員
改修工事中	改修現場の見学	生徒
改修工事後	環境学習授業 ・総合的な学習での取り組み ・教科学習での取り組み	生徒



写真1 室内環境を測定し理解する授業の実施

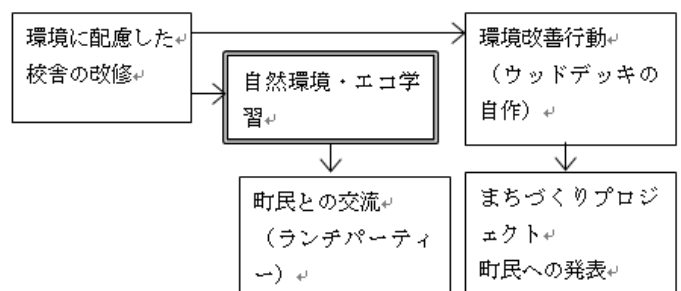


図1 環境学習の広がりダイアグラム